

香川県綾歌郡綾歌町方言の待遇表現

江端 義夫

I. はじめに

- (1) 調査対象地：綾歌町は香川県の中西部に位置し、人口は12181人、面積は27.15^ハイ^ハ和^ハメ^ハト^ハ、世帯数は3538戸である。鉄道は琴平電鉄琴平線が、東北から西南に町を貫いて走っていて、高松市への買い物に便利である。北方の坂出市に向けて県道438号線があり、交易に都合がよい。産業別就業人口の比率は、一次・二次・三次がそれぞれ、17.6%・33.8%・48.6% となっている。第一次産業の比率が比較的高い。
- (2) 調査年月日：1997年11月21日（金）
- (3) 話者：兎寺 信夫 大正3年1月16日生、83歳、無職
佐藤 昭義 昭和33年11月17日生、39歳、公務員
* 話者には女性が指定されていたけれども、都合により男性を選んだ。ただし、統一調査票に基づいて質問を行い、場面設定の通りに調査を実施している。
- (4) 調査者・調査場所：江端 義夫・綾歌町公民館
- (5) 調査方法：待遇表現調査票の統一質問文による質問調査を実施した。
- (6) 表記方法：カタカナによる音声表記による。高音部に傍線を付す。

II. 調査結果

I. 尊敬表現

I-1 対者敬語

- (1) A お前は オマハン 係助詞の「は」は、省略される。
元気かね ゲンキナ カ。
B あなたは アンタ/アータ/アンタナ 係助詞の「は」は、省略される。「ナ」は「には」に相当する。
元気かね ゲンキデス カ。/ゲンキナン ナ。
C あなたは チョーチョーハンナ *職階名を明示する。
元気かね ゲンキデ ヤットルデス カ。/ゲンキデ ナー、ヤットリマス カ。
- (2) A あしたは家にいるか アシタ イエー オルン ナ。/~オルン カ。
B あしたは家にいるか アシタ イエー オイデマス カ。
C あしたは家にいるか アシタ イエー オイデマス カ。
- (3) A あした行くか アシタ イク カナ。
B あした行きますか アシタ オイデマス カ。

- C あした行きますか アシタ オイデマス カ。
- (4) A 温泉に行かないか オンセン アソビ イッ カー。/オンセンニ イカン ナー。
- B 温泉に行かれませんか オンセンナ イカレマス カ。(多)/イケマス カ。/イキマス カ。
- C 温泉に行かれませんか オンセンニ オイデマセン カ。
- (5) A しめますか スルン ナ。(多)/スン ナ。
- B されませんか サレルン ナ。
- (6) A 見ましたか ミタン ナ。(註) /ミヨルン ナ。(註)
- B 見ましたか ミマシタ カ。(註) /ミテオルン ナ。(註) /ミテイルン ナ。(註)
- (7) A 何時に寝ましたか ナンジニ ネタン ナ。
- B 何時に寝ましたか ナンジニ ネタン ナ。
- C 寝てください ネテ イタ。/ネー イタ。/ヨコン ネテ ツカ。/ヨコンニチャー。/ヨコン ナツテ クダハイ。
- (8) A どこに行っているか ドコ イキヨン ナ。/ドコ イツキヨー カ。
- B どこに行っていますか ドコエ イツキヨル。/ドコエ オデカケ ナ。
- C どこに行っていますか ドコエ オデカケデス カ。
- (9) A 食べてください タベテ クレ。/タベー ヤー。
- B 食べてください タベテ ツカ。/タベテ イタ。/タベテ ミナイ。
- C 食べてください タベ ツカ。 *「召し上がる」は公衆の前での言い方。
- (10) A 見せてくれないか ミセテ イタ。/ミセテ ツカ。
- B 見せてくださいませんか ミセテ モラエンニャロ カ。(多) /ミセテ モラエンジャロ カ。

I-2 第三者敬語

- (11) A 居るだろう オルジャロ(敬) /オルヤロ。(註)
- B 居るだろう タイテー オリマス ワ。/タイテー オリマス ヨ。
- C 居るだろう タイテー オリマス ヨ。
- (12) A 居なかった オラナンダ。(多) /オランカッタ。(多)
- B 居なかった イナカッタ ヨ。/オイデンカッタ ヨ。(註)
- C 居なかった オラナンダ ワナ。(多) /イナカッタデス ヨ。(註) /オリマセンデシタ ヨ。(註)
- (13) A そう言った ハナシユー シトツタ ワナ。/ハナシユー シオッタ セ。
- B そう言った ハナシユー シオリマシタ ヨ。/ウワサ シオッタ セナ。
- (14) A 行っていた イットツタ。(註) /イツキヨッタ。/オッタ ワ。(註)

- B 行っておられた イットツタ ヨ。
- C 行っておられた イットツタ ヨ。
- (15) A 来ている キトル ソ。
- B 来ている キトル ガナ。ノ オイデトリマス ヨ。(停)
- C 来ている オイデテマス ヨ。ノ キトリマス。
- (16) A 仕事をしている シゴト シオル ワ。
- B 仕事をしている シゴト シオル ワ。
- (17) A 見せてもらった ミセテ モロタ。
- B 見せてもらった ミセテ モロタ。
- C 見せてもらった ミセテ モロタ。
- (18) A 見せてくれた ミセテ クレタ ヨ。
- B 見せてくれた ミセテ クレタ。
- C 見せてくれた ミセテ クレタ。
- (19) A (私に) くださった クレタ。
- B (私に) くださった イタダイタ。
- (20) A いただいた モロタ。
- B いただいた モロタ。

II. 謙譲表現

II-1 謙譲表現

- (21) A 私も ワシモ
- B 私も ワタシモ
- C 私も ワタシモ
- (22) A 十分に食べました ジューブンニ ヨバレマシタ。
- B 十分に食べました ジューブンニ イタダキマシタ。
- (23) A 持ちましょう モッタゲル ワ。ノ モッタゲマス。(停)
- B 持ちましょう モッテ アゲマス ワ。
- (24) A 待たせたね マタシテ ナ、スマナング ナ。
- B お待たせしました マタシテ スマナング ナ。
- C お待たせしました ドーモ マタシテ スママセンデシタ。
- (25) A (駅で) 待っているよ マツトル ヨ。
- B (駅で) 待っているよ マツトリマス ヨ。ノ マツテル ヨ。
- C (駅で) 待っているよ マッテ イマス ヨ。
- (26) A 言ってくれ ユートイテ ツガ。
- B 言ってくれ ユートイテ ツガ。
- C 言ってくれ ユートイテ ツガ。

- (27) A (これを) やろう アゲマス ヨ。 / ヤル ソ。(轄)
 B (これを) あげましょう アゲマス ヨ。 / アゲル ヨ。(譲)
 C (これを) あげましょう イルノヤツタラ ナー、～テクダサイ。 / センセー
 ナ、アガッテ ツカ。(姓に敬語を付けている)

II-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった コーテ ヤツタンジャガ。
 B 買ってやった コーテ ヤツタンジャガ。
 C 買ってやった コーテ ヤツタ。
 (29) A (主人はもう) 帰っている カエツトリマス ヨ。
 B (主人はもう) 帰っている カエツトリマス ヨ。

III. 丁寧表現

- (30) A 行くよ イク ワ。(多) / イク ゼ。(少)
 B 行きます イキマス。
 (31) A 寒いね サムイ ナー。 / サムイ ノー。(黙って)
 B (今日は) 寒いね サムイ ナー。
 C (今日は) 寒いね サムイデス ナー。
 (32) A 居るよ イル ヨ。 / オル デ。(黙って) / オル ゼ。(黙って)
 B 居ます オリマス ワ。
 (33) A よかったねえ ヨカッタ ナー。 / ヨカッタ ノー。(黙って)
 B よかったですねえ ヨカッタ ナー。
 C よかったですねえ ヨカッタデス ナー。
 (34) A そうか ソヤ ナ。
 B そうですか ソーヤロ カナー。 / ソヤ ナー。
 C そうですか ソーデス カ。 / ソーデス ナー。

IV. 人間関係に応じた待遇表現

IV-1 特定表現の待遇表現

- (35) A その角を曲がって右へ行くと アシコノ カドー ミギエ マガッテ ナ、ソ
 イカラ マタ チョット ナ。。。 / ソノ カドー ミギエ マガッテ
 モロテ。。。
 (36) とんでもない トンデモナイ。

IV-2 多人数場面の待遇表現

- (37) ショーガ ナイキニ ヤリマス ワ。 / ヤラシテ ムライマス ワ。 / サシテ
 モライマス。
 (38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい イマノ ジンイン
 デワ ナ、チョト イケンカラ ナ、モー スコシ ナ、ミナサン ススメテ ク

レマセン カ。ノススメテ モラエン カナ。

IV-3 位相による待遇表現

(39) -1 お寺の住職さん

A オハヨーゴザエマス。

B キョー ドコ オイデルン デ。ノキョーワ ドコ オイデル ナ。

(39) -2 校長先生

A オハヨーゴザイマス。

B キョー ドコ オイデル ナ。ノキョー ドコ イクン ナ。

(39) -3 見知らぬ年配の男性

A オハヨ。

B キョー ドコ イキヨン ナ。(軽A)ノキョー ドコ イキヨイ ヤ。(軽A)

(39) -4 見知らぬ年配の女性

A オハヨー。

B ドコエ オイデヨン ナ。

(39) -5 顔見知りの年上の男性

A オハヨーゴザイマス。

B ドコエ イキヨン ナ。ノドコエ オイデヨン ナ。

(39) -6 顔見知りの年上の女性

A オハヨーゴザイマス。

B ドコ イキヨンドス カ。ノドコエ イキヨン ナ。

(39) -7 10歳ほど年下の見知らぬ男性

A オハヨーゴザイマス。

B ドコ オイデルン デ。ノドコ イツキヨン ノイヤ。ノドコ イツキヨン ナ。

(39) -8 10歳ほど年下の見知らぬ女性

A オハヨーゴザイマス。

B ドコ オイデルン ナ。(軽)ノドコ イツキヨン ナ。(軽A)

(39) -9 同級生の男性

A オハヨー。

B ドコ イツキヨン ノイヤ。

(39) -10 同級生の女性

A オハヨーゴザンス。

B ドコ イキヨン ナ。

(39) -11 10歳ほど年下の顔見知りの男性

A 9時過ぎれば、時の挨拶をしない場合が多い。

B (相手の様子を見て) キョーワ ナニ ヤル ネー。ノキョー ドコ イキョ
ン ノイヤ。

(39) -12 10歳ほど年下の顔見知りの女性

A コンニチワー。

B (服装を見て) キョー ドコゾ イクン ナー。ノナニガ デキヨン ナ。ノ
ドコゾ オイデン ナィ。

(39) -13 近所の中学生の男の子

A 9時ごろに中学生に出会うことがないし、休日でも中学生は勉強しているから
出会うことがない。出会っても会釈して通るだけで、ことばを交わさない。

B 同上

(39) -14 近所の中学生の女の子

A 出会っても、互いに会釈して通り過ぎるくらいである。たまに中学生の方から
「さようなら」と挨拶されることがあるので、「さようなら」と挨拶を返すくら
いで、余り、会話をしない。

B 同上

Ⅲ. おわりに

綾歌町方言の待遇表現の特色は、大きく次の二つが取り出される。一つは、近畿よりも簡素な四国的な敬語が使用されているということである。2人称が「オマハン」であったりするが、東京方言のように、「お～になる」に相当する最高敬語が聞かれない。その代わりに、謙譲語の表現に、「～ツカ」「～イタ」「～イタダク」「～モロタ」「～オル」などが聞かれ、多彩である。また、近畿の敬語では身内に対して「～なさる」に相当する「～ハル」が使われるが、綾歌町では、それが無い。いわゆる目立たしい事象に乏しいというのが特色である。

二つめの特色は、相手を上位待遇者か同輩以下かで、はっきりと言い方の区別をすることである。上位待遇者に対しては、例えば、「行く」を「～オイデル」で待遇し、下位待遇者には、敬語なしの「行く」で済みます。上位待遇者には、先生、医者、女性が入る。下位待遇者には、同輩、子供、家族が含まれる。このように二層にクラスを分ける認識は、日本社会の各地に認められる普通の観念に通うものと見られる。

(えばた よしお 広島大学教育学部)